

特集にあたって

佐藤幸人

経済発展を推進するのは企業である。国家による経済発展を目指した社会主義モデルが否定されて久しい。国家が一時的に企業を先導することはなおあるが、持続的な経済発展のためには、いざはリーダーシップを企業に委ねざるを得ない。

途上国や新興国の企業経営において、多くの場合、企業家あるいはトップマネジメントのパワーは絶大である。彼らがどのような背景を持ち、どのように思考し、どのような選択をするのかは、彼らが経営する企業の活動を決定する。その企業が一国を代表する大企業であれば、あるいは非常に革新的な試みに挑むならば、彼らの意思決定はその国の経済発展の方向にも影響を及ぼす。確かに一面において、企業家・経営者は置かれた環境に拘束され、通常、彼らの選択の範囲には限りがある。し

かし、彼らは環境をも変え、選択の範囲を拡張する主体性を持つている。そこに彼らに注目する理由がある。

企業家や経営者の影響力は経済に限られるものではない。彼らは経済的なパワーを持つばかりでなく、そのサクセスストーリーは往々にして政治的、社会的な尊敬の対象ともなる。彼らはそれらの資源を使って、政治や社会の変革にも作用することができる。そして実際に影響力を行使するのか、そしてどのように行使するのかは、彼らの思想や価値観に依存する。企業家・経営者とその考え方に注目するもうひとつの理由である。

もちろん、企業家や経営者は経済や政治・社会に対して、常に進歩的な役割を担うわけではない。レントシーキングに走り経済の健全な発展を脅かしかねないことも、政治家と癒着し政治を腐敗さ

せうることも、正義を破壊し社会を荒廃させてしまうかもしれないことも、企業家や経営者のもうひとつの側面であることは忘れてはならない。

アジア経済研究所ではこれまで、途上国や新興国の経済発展における企業の役割を研究し、企業家や経営者の重要性を明らかにしてきた。このような研究は現在も継続している。今回の特集では、新興国の成長が注目されると同時に、貧困と格差の深刻化が指摘されるなか、多くの国で政治に変動が生じ、社会の仕組みが揺れ動くなか、わたしたちの日頃の研究に基づきながら、企業家・経営者という視点から後発国の今にアプローチすることを狙いとしている。

もとよりこの特集は、複雑で錯綜した途上国や新興国のごく一部の断面を切り取ったにすぎない。それでも、そこから浮かび上がる

企業家・経営者と経済・政治・社会の相互作用は示唆的である。以下では一二の報告から得られたインプリケーションを整理してみたい。

●既存の資源の結合と新しい能力の創造

企業の重要な役割のひとつは、企業内外の資源を結合し、新しい価値を生み出すことである。とりわけ後発国の場合、結合による価値創造のチャンスは次から次へと湧き出てくる。企業家や経営者はそれを嗅ぎ取り、現実のものとするコーディネーターなのである。事業の買収と売却を繰り返すチリのホセ・ジュラセックはその典型といえよう。また、ロバート・クオックはアジア大でチャンスを発掘していったとみることができ。彼はマレーシアでの貿易会社からスタートし、シンガポールを拠点にアジア各地に進出し、ホテルや不動産事業を展開した。一九七〇年代後半には香港に本拠地を移し、中国の改革開放が始まるといち早く参入している。

このように、企業家・経営者がビジネスチャンスをみつけ、既存の資源を結びつけることは企業に利益をもたらす。しかし、経済の発展を促す。しかし、経済の持続的な発展

という観点からは、企業が新しい能力を創造するという役割を果たすことも必要である。企業家や経営者はそれを積極的に推し進めることが期待される。今回の特集では複数の国について、そのような企業家・経営者が報告されている。

韓国のオンラインゲーム産業では、キムジョンジュら若き企業家たちは新しいゲームを創作するだけではなく、ゲームを営利事業として成り立たせる革新的なビジネスモデルを創出してきた。台湾のジャイアントの創業者、劉金標はOEM事業が危機に陥ると、自社ブランド事業に進出し、海外の販売網を構築し、製品開発の能力を高めることによって、さらなる発展の途を切り開いた。中国では大部分の企業は出来合いの資源の結合でよしとしているが、それでも大長江集団の王大威のように、地道に製造や品質管理の能力の蓄積を進める企業家がいる。ベトナムのピナミルクのマイ・キユウ・リエンは資源の結合の段階から、新しい資源の創造に向かいつつあるようにみえる。

●政治と社会の変革の担い手へ

かつての発展途上国では、国家のプレゼンスは概して大きく、企

業はそれに強く依存したり、その支配をかくぐつたりしながら、存続と成長の機会を見出そうとしてきた。大統領の次男の地位を利用してインドネシアのバンバン・トリハトモジョや、税関に過少申告し、関税を逃れて石炭やプラスチック原料を輸入し、富を築いたインドのゴータム・アダニは、典型的な途上国の企業家である。

しかし、今回の特集ではむしろ、国家から自立しようとする企業家や経営者が報告されている。中国の王大威は国营企業を辞めて、起業した。ベトナムのピナミルクはリエンの経営のもとで、国有企業から民間企業に転換された。バンバンが創設したビマンタラ・グループは、新興企業家のバンバン・ハリ・イスワント・タヌスディップヨ、略称ハリタヌが引き取った。韓国ではかつて政府の産業政策が巨大な財閥を生み出したが、オンラインゲーム産業の企業家たちの登場は政策とは無関係である。

さらには、政治や社会の変革を推し進めようとする企業家や経営者も存在する。メキシコのカルロス・スリムは、事業の成功を社会へ還元しようとする企業家の典型である。彼は巨万の富を貧困削減のため、教育と健康に投資してい

る。また、美術館を建て、自身の収集品を展示し、無料で公開している。

事業そのものを通して、社会に貢献しようとする企業家・経営者もいる。ピナミルクの乳製品事業は、人々の栄養状態を改善したいというリエンの思いに支えられている。ジャイアントの劉金標は自転車をつくるなかで、その良さに気づいていった。そして、自転車不毛の地であった台湾をサイクル・パラダイスに変えようと、自らペダルを踏んで普及活動に取り組んでいる。

政治や社会の変化によって、新しいタイプの企業家も生まれている。エジプトのナギーブ・サウイリスは、ムバラク政権下において独立系の新聞社を設立し、政権崩壊後は新しい政治体制の建設に積極的に関与している。アフリカのモハメッド・イブラヒムは事業を売却して得た資金で財団を設立し、アフリカにおけるガバナンスの向上を支援している。このふたりの企業家の活動はアフリカ大陸における政治変動に促されたものであり、同時に変化をさらに前進させるものである。ブラジルの二〇一〇年の選挙において、コーポレートナイツ社の経営者、ギリェ

ルメ・ペイラン・レアルは緑の党の副大統領候補となった。彼もまた環境保護への関心の高まりが生み出した新しいタイプといえよう。

●企業家・経営者と経済・社会・政治との相互作用は続く

今回の特集によって、途上国や新興国の企業家・経営者を包括的に論じることは不可能である。とはいえ、様々な面において、かつてはみられなかったような企業家・経営者像が浮かびあがったことも間違いない。それをもたらした要因が経済・政治・社会各方面における環境の変化であることは明らかである。例えば四半世紀前を振り返るならば、オンラインゲームはなく、中国の改革開放やベトナムのドイモイは緒についたばかりであり、多くの国では専制政治が行われ、人々の環境意識は低かった。しかし、変化は企業家や経営者その一部を生み出したものであることも見逃すことはできない。そしてこのような相互作用は今後も続き、それによって企業家や経営者のイメージも変貌していくであろう。

(さとう ゆきひと/アジア経済研究所 新領域研究センター)